

# 総括質問

各派代表者が市長に聞く！

総括質問とは、新年度の施政方針に対する質問で、2人以上で構成する会派による代表制質問のことです。

今定例会では、3月3日の本会議において、5人の議員が会派を代表して総括質問を行い、市長の施政方針に対して考えをたしました。

ここに掲げたのは、その質問・答弁の概要で、質問者本人が執筆しています。

なお、各ページに掲載しているQRコードから、各議員の総括質問の録画配信映像をご覧ください。

シニアが人生を楽しめる社会へ  
就労、健康、学習などをメニュー化  
戸田の会  
酒井 郁郎 議員



**議員** シニア世代が希望に合わせて働く「生きがい就労」に適した仕事の創出、多様なニーズに合った健康増進メニューの提供などの幅広い取り組みで、衰えを防止し人生を最後まで楽しめる施策を。

**市長** シニア社会参加推進プランを策定し、就労、健康づくり、地域活動、学習などのメニューを作る。幅広いニーズやライフスタイルに対応したい。



人生100年時代に向けた社会づくりが、国を挙げて急ピッチで進みます

### 学童保育の質的向上を

**議員** 駄菓子中心の乏しいおやつ改善と、おやつ以外の面にも民間を活用し、質の向上を。

**市長** 食育や栄養面にも考慮したおやつ選定を行うよう、関連予算を拡充するほか、保育の質向上を目指し、民間事業者に委託しノウハウの提案を求め。

### マンション管理のサポートを

**議員** マンションの老朽化が進む中、その管理は重要な課題。管理組合ごとに実力が異なるが、金銭面・マンパワーの負担増などの課題へのサポートは。

**市長** マンション管理の推進計画、認定制度を創設し、管理水準の底上げや、資産価値向上を狙う。認定取得のためのセミナーや、専門家の具体的なアドバイスを提供するなどサポートを充実していく。

### 不登校児童生徒への支援を

**議員** 近年、ますます不登校の小中学生が増加している。不登校児の選択肢を拡大する取り組みを。

**市長** 一人ひとりのニーズに応じた教育を進める。

### 都市計画道路前谷馬場線の 拡幅整備の現状は

第1工区は今年度中に  
完成予定

みらいの会  
榎本 守明 議員



**議員** 二枚橋交差点から戸田駅に通じ、まちの玄関口ともいえる「都市計画道路前谷馬場線」の拡幅整備は、交通安全や都市景観の面からも注目度の高いものであり、着実な前進が求められている。前谷馬場線の整備状況と今後の計画は。

**市長** 新曽柳原交差点より南側の第1工区は今年度中に完成する予定である。新曽柳原交差点より北側の第2工区は用地取得率が約53%で、引き続き用地取得を進める。また、用地交渉がまとまった箇所は、交通安全対策などの効果が見込まれる場合は暫定的な整備を検討する。



前谷馬場線の着実な整備が求められています

### 公共施設管理に対する考え方は

**議員** 公共施設等総合管理計画の改訂に当たり、スポーツセンターの在り方を含め、公共施設の管理に対する考え方を伺う。

**市長** 公共施設等総合管理計画の改訂に当たり、施設寿命のみに捉われず、必要に応じて施設の在り方を検討し、本市の将来を見据えて本当に必要な施設を計画的に再考していく仕組みを構築する。スポーツセンターについては、公共施設等総合管理計画の改訂内容との整合性を図り、老朽化や市民ニーズの変化、課題などを整理し、今後の在り方について複合的に検討していくため、調査、検討業務を令和5年度に実施する。建て替えを含め、既存の改修計画との比較検討を行う。

### 条例制定で ヤングケアラーへの支援を

支援調整連絡会の設置で  
支援する

公明党  
三浦 芳一 議員



**議員** ケアラー支援条例の制定によるヤングケアラー支援の推進について伺う。

**市長** ケアラー支援調整連絡会を設置し、関係機関の連携により、ヤングケアラーへの支援を進める。

### こども家庭センターの設置へ

**議員** こども家庭センターの設置に向け、具体的な内容と推進について伺う。

**市長** 4月から先行して設置し、すべての妊産婦、子育て世帯、子供への一体的な相談支援体制を強化していく。

### 地域防災力の向上を

**議員** 地域防災力の向上を目指す、実践的な防災訓練の実施について伺う。

**市長** 地震・風水害の被害と対処事項を取りまとめ、防災訓練のシナリオや役割分担を作成し、実践的な防災訓練へと見直していく。

### 市役所で「書かない窓口」の拡大を

**議員** 住民票や印鑑証明書を、記入せずに申請できる「書かない窓口」の推進について伺う。

**市長** 行政のデジタル化推進の一環として、令和4年12月から「おくやみコーナー」を導入した他、市民からの申請を受け付ける窓口についても「書かない窓口」を拡大していく。さらなる市民の利便性向上に努めるとともに、デジタル市役所の実現に取り組んでいく。



令和4年から導入されたおくやみコーナー